

森村進先生 退職記念

献辞

一橋大学大学院法学研究科の尊敬する同僚、森村進先生は、1988（昭和 63）年 4 月から通算 31 年の長きにわたり本学において法哲学の研究・教育一筋に過ごし、2019（平成 31）年 3 月末日をもって定年退職なさった。その間、先生の門下から多くの若手研究者が輩出したのみならず、精力的な研究ぶりは法学研究科教員の模範となり、多数かつ幅広い著作は広く学界に知的刺激を与え続けている。

本号は、先生の学問から影響を受けた若手研究者たちの論文を中心に編まれ、御退職を記念して森村進先生に捧げられる。

私は、四半世紀もの間、先生の同僚として親しく過ごす幸運に恵まれた。本号を献呈するにあたり、若干の私的回想をここに述べることをお許しいただきたい。

30 年以上前のことである。まだ大学院生だった私は、『ギリシア人の刑罰観』（木鐸社、1988 年）という本に衝撃を受けた。プラトン、アリストテレスそして古典期ギリシアの悲劇詩人や弁論家の著作までを、「刑罰の正当化」や「責任」という刑法学の基本問題に引き付けて縦横に論じる著者のなんたる博覧強記。本文だけで 366 頁もあるのに、もとの論文に 100 ページもあった注は割愛したという。著者の名前は森村進。33 歳の未知の法哲学者。肩書は神奈川大学助教授とある。これが先生の著作との最初の遭遇であった。7 年後、私自身がこのおそるべき俊英と一橋大学法学部で同僚になるのだが、そんなことはもちろん夢にも知らず、ただ舌を巻くしかなかった。

森村先生の文章は、この処女作から一貫して、いつも自信に満ち溢れている。著作の「まえがき」や「序文」からいくつかフレーズを拾ってみる。「私は自分が実際よりも独創的に見えたり、あるいは恩知らずのように見えたりすることを望まないし、また本書の内容に関心をもつ読者の助けにもなりたいので、使用したテキストと主要な参考文献を本書の巻末に挙げておいた」（『ギリシア人の刑罰観』）。「私の知る限り、今日の日本で財産権について本書ほど総合的な理論の構

築を試みる蛮勇を持った人はほかにいない」(『財産権の理論』弘文堂)。「本書は論文集にありがちな、論旨や文体における統一性の欠如とか無用な重複とかいった欠陥を免れています」(『ロック所有論の再生』有斐閣)。「私は自分こそ日本における代表的なリバタリアンであると自負しています」(『リバタリアンはこう考える』信山社)。

この書きぶりからは、「寄らば斬るぞ」という気魄に満ちた昂然たる学者の姿が想像される。臆病な人ならその前を避けて通るにちがいない。

1995(平成7)年の新学期が近づいた頃のことである。森村先生はすでに一橋大学法学部に着任していた。同年度から助教授に迎えられることになっていた私は、まもなく森村先生と2人で、小平キャンパスで開講される「法学通論」という講義を担当することになっていた。その講義の打ち合わせを兼ねた基礎法部門の教員の集まりがあり、森村先生御本人と私は初めてお目にかかった。

私は少なからず驚いた。いや拍子抜けしたというべきか。目の前にいる森村先生は私の予想に反してニコニコと穏やかに微笑み口数も決して多くなかったからである。このような柔らかく温かな雰囲気の人が「あの森村進」だとは、にわかには信じがたいほどだった。お書きになる文章から、「眼光も舌鋒も鋭い饒舌家」に違いないと想像していた私の予想は、完全に裏切られた。

しかし、そうはいつでも、やはり森村先生が一種の「知的巨人」であることは間違いない。一言でいうと、先生は「何でも知っている人」である。その該博な知識の源は膨大な読書量にあるようだ。

ここで同級生たちの証言を引こう。野田秀樹(劇作家)と鎌田浩毅(京都大学教授、火山学者)両氏の『劇空間を生きる』(ミネルヴァ書房、2018年)という対談本がある。2人は東京教育大学附属駒場中高の同級生である。その2人が「ユニークな同窓生」について語りあう中で「勉強好きな同級生」に話が及ぶ。そこではこんなやりとりが行われているのではないか。

【野田】 高校の図書室の本に挟んでる貸出しカードを見るとさ、とにかく「森村」って名前がある。どれを開いても「森村」。「どんだけ読んでもんだ、こいつ」みたいな。

【鎌田】 今、一橋大学でリバタリアニズムの権威ですけど。森村進教授。

【野田】 森村、一日5冊ぐらい借りてたんじゃないかな。

【鎌田】 そうそう。で、全部読んでたね。

さもありなん。さすがわれらが森村教授。なんだかこっちまで誇らしくなる。少年時代から続く、質が高く量も膨大な読書が、自信に満ちて痛快な森村先生の文章の背後に隠れている。

一橋大学名誉教授となった現在も、先生の研究活動は衰えるどころか、ますます旺盛である。われわれ後輩も、うかうかしてはいられない。

青木人志